

「森林文化都市 沼田」の主な取組み

紹介します！

問合せ先 企画課秘書広報係 ☎2212

最終回！



◇群馬県沼田市
森林文化都市
アクションプラン

森林文化都市アクションプラン
群馬県の北部に位置する沼田市は、豊かな森林に恵まれ、平成2年に全国で初めて「森林文化都市宣言」をしました。宣言にある「森林に囲まれたまちを誇りとし、人と自然が真にふれあう理想のまち」を実現する第一歩として、令和7年1月に「森林文化都市アクションプラン」を策定し、各事業に着手しています。



② Jークレジット創出事業
市有林の適正な管理により温室効果ガスの吸収能力を高め、「Jークレジット」を創出する事業です。Jークレジット制度とは、森林管理などによる温室効果ガス吸収量を国がクレジットとして認証する制度で、クレジットは購入希望企業などへ売却できます。この売却利益は「森林文化都市アクションプラン関連事業」に充当しています。

① たんばら・森林の学校事業
「たんばら・森林の学校」は、沼田市内の子どもたちが、森林のもつ機能や働き、環境保全の重要性などについて学ぶ取組です。ブナ林が原生林に近い状態で保存されている玉原高原での散策や、ブナの幼木移植などを通して学習することで、「森林文化都市沼田」に対する誇りと愛着の促進を図る事業です。



ブナ林



星野沼田市長と子どもたちによる植樹の様子



てんぐ積み木

ウッドスタート宣言
沼田市では、令和2年12月24日にウッドスタート宣言を行い、木育に取り組んでいます。ウッドスタートとは、木育の第一歩として、赤ちゃんが初めて触れる道具やおもちゃに地産地消の木製品を選ぶことで、木の温もりを感じながら楽しく豊かに暮らしていくことができるようにする取組です。ウッドスタート活動の一環として、市内で生まれ、新たに沼田市の住民となる赤ちゃんに積み木をプレゼントしています。この積み木は、沼田市産の木材を使い、市内の木材加工業者でひとつひとつ手作りされたものです。



下田港 ボートパーク整備事業

問合せ先 静岡県下田土木事務所企画検査課 ☎242113

※平成28年1月撮影（一部加工）

美しく魅力ある景観を阻害し、防災上のリスクも含む
下田港に流れ込む二級河川稲生沢川には、約150隻の漁船やプレジャーボートなどが混在し、船が何列にも横に連なり係留されています。その中には長期間使用されず放置された船や沈没船も含まれ、景観の悪化や船舶の航行・離着岸の妨げとなるだけでなく、津波発生時には船舶が遡上して家屋などに被害を及ぼすことが懸念されています。
課題の解決を図りつつ、より魅力的な「場」を創造する
県は、このような状況を踏まえ、港湾関係者や地域の代表者等で構成される「賀茂地域水域利用推進調整会議」において、下田港における船舶の適正な利用に向けた対策を検討してきました。

県は、ボートパークの来年度の事業化を目指し、現在、整備計画の策定を進めています。
まどが浜海遊公園における賑わい創出に向けた整備や取組みについて、市民の皆さんのご意見を伺いながら、検討していきます。



稲生沢川河口の状況（令和6年9月時点）

よう、クルーズ客船やピジター船の受け入れ、民間のノウハウや資金を活かした集客施設の整備についても検討を進めています。
道の駅「開国下田みなと」や伊豆急下田駅などの陸路の拠点に加え、海の拠点となるボートパークを整備することで、下田港周辺は、多くの人が集まる交流の場になると考えています。



下田港における「みなとまちづくり」
下田市では、市の中心的拠点である下田港とその背後に広がるまち一帯を「みなとまちゾーン」と位置づけ、地域の魅力を高め、憩いと賑わいの創出を目指す取組みを官民が連携して進めています。
みなとまちゾーンの中でも臨海部（マリナーパークエリア）では、道の駅の施設更新、ボートパーク整備、魚市場の建替え、旧下田ドック跡地の開発などが検討されています。
これらの取組みによって臨海部（マリナーパークエリア）の魅力が最大限に引き出されるよう、令和8年3月に官民一体となって進める具体的な戦略「マリナーパークエリアビジョン」を策定しました。